



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

商品概要

商品分類	追加型投信／海外／株式
投資対象	シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式、及び関連企業の株式等に投資をします。 関連企業とは、アセアン加盟諸国で営業を行なう、もしくはアセアン加盟諸国の経済動向から影響を受ける企業をいいます。
設定日	2015年4月28日
信託期間	無期限
決算日	毎年4回(原則として毎年1月、4月、7月および10月の20日(休業日のときは翌営業日))に決算を行ないます。

ファンドの状況

基準価額の推移 (設定来)
(2015/4/28 ~ 2018/3/30)



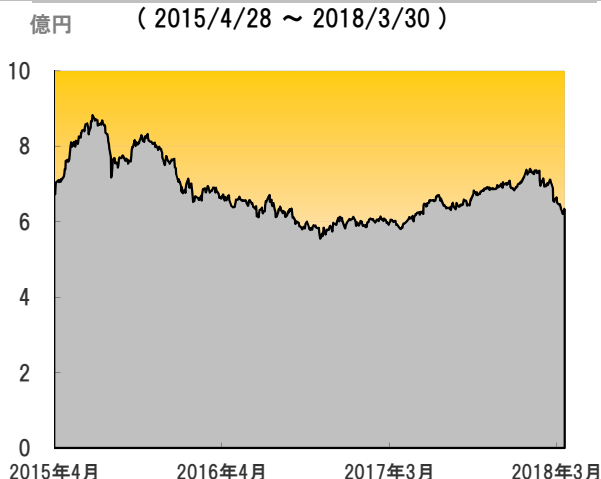
ファンドの現状

基準価額	10,442 円
前月末比	-542 円
純資産総額	6.3 億円
前月末比	-0.8 億円

分配実績 (1万口あたり、税引き前)

第1期から第6期		0 円
第7期	2017年1月20日	0 円
第8期	2017年4月20日	0 円
第9期	2017年7月20日	0 円
第10期	2017年10月20日	0 円
第11期	2018年1月22日	100 円
合計		100 円

純資産総額の推移 (設定来)
(2015/4/28 ~ 2018/3/30)



運用実績

期間	騰落率
1 カ月	-4.9%
3 カ月	1.7%
6 カ月	10.2%
1 年	20.1%
設定来	5.4%

※分配金は再投資したものとして計算しています。

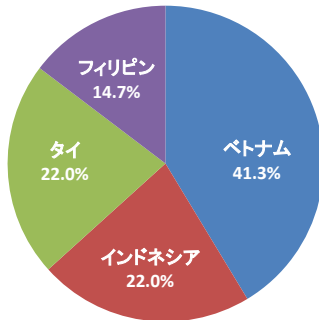


アセアンワールド ファンド

追加型投信/海外/株式

Capital Asset Management

組入比率(国別構成比)



※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。
※上記の円グラフの組入比率は現金を除いた組入比率です。

組入上位5業種

業種構成	構成比率
銀行	20.0%
不動産	12.5%
テクノロジー・ハードウェアおよび機器	10.5%
運輸	10.1%
エネルギー	9.5%

組入銘柄数	51
-------	----

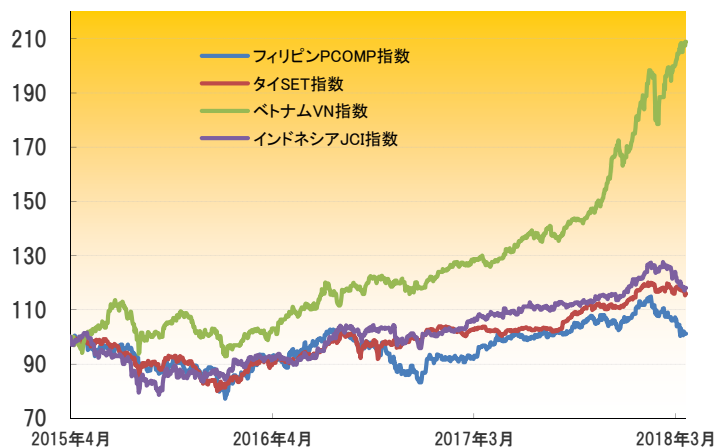
組入上位10銘柄

銘柄名	国	業種	純資産比率
FPT	ベトナム	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	7.3%
軍隊商業銀行(ミリタリー・コマーシャル)	ベトナム	銀行	5.8%
マッサングループ	ベトナム	食品・飲料・タバコ	4.2%
エルヌサ	インドネシア	エネルギー	4.1%
トラダ・アラム・ミネラ	インドネシア	運輸	3.9%
ルクン・ラハルジャ	インドネシア	エネルギー	3.6%
バンコク銀行	タイ	銀行	3.2%
ラチャブリ・エレクトリシティ	タイ	公益事業	3.2%
APタイランド	タイ	不動産	3.2%
ジェマデプト	ベトナム	運輸	3.0%

(ご参考) 株式指数・為替の推移

主要投資対象国の株価指数の推移

(2015/4/28 ~ 2018/3/30)

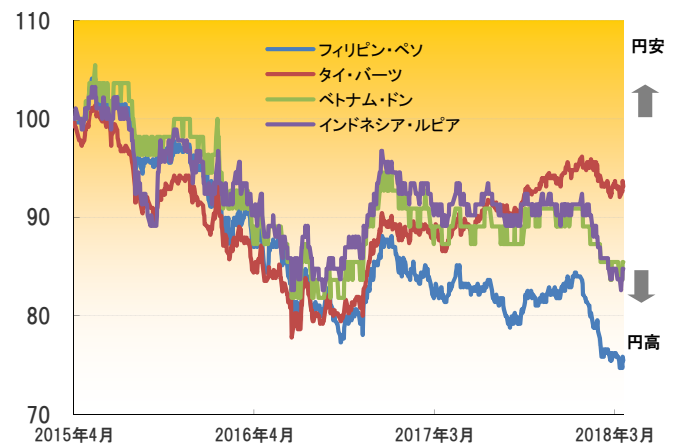


出所:ブルームバーグのデータをもとに当社が加工して作成。

※ 2015年4月28日の値を100として指数化しています。

主要投資対象国の通貨 対円レートの推移

(2015/4/28 ~ 2018/3/30)



出所:投資信託協会

※ 2015年4月28日の値を100として指数化しています。

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。
記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

マンスリーコメント

■ベトナム株式市場

3月のベトナム株式市場は、好調な経済成長や大手企業の新規上場、外国人投資家による買い越し、さらに、定時株主総会シーズンに発表された2018年事業計画などに関する情報も支援材料になり、月末終値で史上最高値を更新しました。一時、米中貿易紛争深刻化への懸念から下落した場面もありましたが、投資家による根強い買いに支えられ不動産や食品など大型優良株中心に、堅調な相場展開になり、3月末時点のVN指数は前月末比4.72%高の1,174.46ポイントで引けています。

◎今後の見通し

ベトナム株式市場は、外国人持ち株比率の制限が緩和される中、上場企業数の増加や政府の保有割合の低下が海外からの資金流入を促すと見られており、中長期的に堅調な相場展開を予想しています。その理由の一つとして今後IPOや上場ラッシュが予定されており、完売もしくはオーバーサブスクライブが予想されています。有望なIPOや上場としては、テックバンクやIT系メディア関連のYeah One、FPTリテール、ビンホームなどが挙げられます。現地大手証券会社の著名アナリストは、今年の1株当たり利益の伸び率は25%程度と高い伸び率を見込んでおり、外国人投資制限比率の緩和とIPOの相乗効果で今年は堅調な相場展開を予想しているようです。加えて、中長期的な注目点としては、MSCI指数での「新興国市場」への格上げ期待があげられます。現在、ベトナムは、MSCI指数においてフロンティア市場に分類されています。市場規模の拡大に加え、外国人持ち株比率の制限緩和などにより外国人投資家のアクセスが改善されれば将来新興国市場への格上げが期待できます。MSCI社はベトナムの格上げについては、外国人保有率上限の引き上げの進捗状況や英文のディスクロージャーの充実、浮動株比率の増加などの改善を同社は注視しているようです。従って、中長期的な観点からこれらの材料を背景に堅調な相場展開を予想しています。リスク要因としては、トランプ米国政権による保護主義政策などが挙げられます。

■フィリピン株式市場

3月のフィリピン株式市場は軟調な相場展開となりました。米国の利上げ加速懸念やトランプ米国政権の保護主義政策に端を発した米中間の貿易戦争勃発への懸念が高まったことが悪材料になりました。フィリピン総合指数は前月末比5.85%安となる7,979.83ポイントで引けています。

◎今後の見通し

経済のファンダメンタルズが好調なフィリピン株式については中長期的に堅調な相場展開を予想しています。運用方針としては、GDP全体の約7割を個人消費が占めるほど、フィリピンは消費が活発なことから、引き続き消費関連セクター（消費者サービス・生活必需品・家庭用品）のオーバーウェイトを維持する予定です。リスク要因としては、トランプ米国政権による保護主義政策などが挙げられます。

■インドネシア株式市場

米国の利上げ加速懸念やトランプ米国政権の保護主義政策に端を発した米中間の貿易戦争勃発への懸念が高まったことが悪材料になり、インドネシア株式市場は軟調な相場展開になりました。3月のジャカルタ総合指数は、前月末比6.19%安の6,188.987ポイントで取引を終えました。

◎今後の見通し

弊社はインドネシア経済については強気の見方をしています。今後も高い経済成長率を達成することが予想されていることや、商品市況の回復が支援材料になりインドネシア株式市場は上昇傾向が継続するとみています。中長期的には、人口の増加や所得水準の向上などを伴いながら、アセアン最大の経済規模を更に拡大していくことが見込まれていることから、株式市場における評価も高まると期待されます。リスク要因としては、トランプ米国政権による保護主義政策などが挙げられます。

■タイ株式市場

米国の利上げ加速懸念やトランプ米国政権の保護主義政策に端を発した米中間の貿易戦争勃発への懸念が高まったことが悪材料になり、タイ株式市場は軟調な相場展開になりました。SET指数の月間騰落率は前月末比2.94%安となり、1,776.26ポイントで引けています。

◎今後の見通し

今後のタイ株式市場の見通しについては、タイにおける政治の安定や、インフレの安定、資源価格の底固めが株価の下支え要因になると考えます。加えて、輸出の拡大と観光業の好調がタイ経済の成長エンジンになる中、国内での大規模なインフラ投資計画を含む景気刺激策の効果が株式市場の支援材料になるとみています。タイでは民政移管に向けた総選挙は2019年2月までに実施される見通しとなりました。民政移管に向けたプロセスについては、今後も状況を注視して参ります。引き続き景気や政治の動向等に注意しながら、ファンダメンタルズが良好で割安な銘柄への選別投資を行っていく方針です。リスク要因としては、トランプ米国政権による保護主義政策などが挙げられます。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

ファンドの特色

【運用プロセス】

■シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式および関連企業の株式等の中から投資魅力度の高い銘柄への投資に注力し、分散されたポートフォリオを構築することを目指します。

■トップダウン分析とボトムアップ分析を組み合わせたアプローチを用います。
 ・トップダウン分析ではマクロ経済動向および政治情勢等の見通しについて検討し、投資判断に活かします。
 ・ボトムアップ分析ではPER(株価収益率)などの指標分析やその他情報等を参考にして各銘柄への配分を決定します。

実質的な運用にあたっては、現地の経済・市場に精通した、CIMインベストメント社の投資助言を活用します。

● CIMインベストメント社

1996年設立、本拠地はロンドンで、子会社を通じてシンガポールとインドネシアの運用拠点をもち、アセアン諸国への投資実績が豊富。

投資リスク

当ファンドは、シンガポール、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ベトナム、タイなどのアセアン加盟諸国の株式および関連企業の株式等値動きのある有価証券に投資します(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動します。したがって、元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。当ファンドに生じた利益および損失は、すべて投資家の皆様に帰属することになります。投資信託は預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額は、主に以下のリスク要因により、変動することが想定されます。

株式の価格変動リスク	当ファンドは、主に海外の株式に投資しますので、当ファンドの基準価額は、株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は政治経済情勢、発行企業の業績、市場の需給を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。このような場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
為替変動リスク	当ファンドは、主に外貨建ての株式に投資します(ただし、これに限定されるものではありません)。投資している通貨が円に対して強く(円安に)なればファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なればファンドの基準価額の下落要因となります。したがって、投資している通貨が対円で下落した場合には、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
カントリーリスク	当ファンドが投資するアセアン諸国の経済状況は、先進国経済に比較して脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化、また、政治不安や社会不安あるいは他国との外交関係の悪化などが株式市場や為替市場に及ぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制など数々の規制が緊急に導入されたり、あるいは政策や税制の変更等により証券市場が著しい悪影響を被る可能性もあります。
信用リスク	株式を発行する企業が、経営不安・倒産等に陥った場合、投資した資金が回収できなくなることがあります。また、こうした状況に陥ると予想された場合、当該企業の株式等の価値は下落し、当ファンドの基準価額が下がる要因となる可能性があります。
流動性リスク	急激かつ多量の売買により市場が大きな影響を受けた場合、または市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に株式を売買できないことがあります。このような場合には、効率的な運用が妨げられ、当該株式の価格の下落により、当ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。
解約によるファンドの資金流出に伴う基準価額変動リスク	解約によるファンドの資金流出に伴い、保有有価証券等を大量に売却しなければならないことがあります。その際には、市況動向や市場の流動性等の状況によって、保有有価証券を市場実勢と乖離した価格で売却せざるをえないこともあり、基準価額が大きく下落することがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。



アセアンワールド ファンド

追加型投信／海外／株式

Capital Asset Management

お客様にご負担いただく費用

- ①ご購入時に直接ご負担いただく費用
 - 購入時手数料:お買付申込日の翌営業日の基準価額に対して、3.24%(税抜3.0%)を上限として販売会社が個別に定める料率を乗じて得た金額
 - ②ご解約時に直接ご負担いただく費用
 - 信託財産留保額:解約請求日の翌営業日の基準価額に対して0.3%
 - ③投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 - 信託報酬 : 信託財産の純資産総額に対して年率1.9548%(税抜1.81%)
 - その他費用:有価証券等の取引に伴う手数料(売買委託手数料、保管手数料等)、監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理等に要する諸費用等
- ※上記の費用(手数料等)の合計額は保有される金額および期間等により異なりますので、予め表示することができません。
 ※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

【お申込に際してのご注意】

- 1.当ファンドは、海外の株式等の値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。また、ファンドは預金または保険契約ではなく、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて受益者に帰属します。第一種金融商品取引業者以外の金融機関は投資者保護基金に加入していません。
- 2.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法により義務づけられた資料ではありません。お申込の際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめあるいは同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 3.この資料におけるデータ・分析等は過去の実績に基づくものであり、将来の運用成果および市場環境の変動を保証もしくは予想するものではありません。
- 4.本資料はキャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

委託会社その他関係法人の概要

- 委託会社: 信託財産の運用業務等を行います。
 キャピタル アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者関東財務局長(金商)第383号
 加入協会: 一般社団法人投資信託協会/ 一般社団法人日本投資顧問業協会
- 受託会社: 信託財産の保管・管理業務等を行います。
 三井住友信託銀行株式会社
- 販売会社

金融商品取引業者名		登録番号	日本証券業協会	協日本投信顧問業	一般社団法人	協会先物取引業	第一種金融商品
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商) 第44号	○		○	○	
益茂証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商) 第12号	○		○		
明和証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商) 第185号	○				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商) 第195号	○	○	○	○	○

記載された事項は、キャピタル アセットマネジメント株式会社が信頼できると考えられる情報に基づき作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。記載内容等は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。取得申込に際しては必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容をご確認ください。